

対象校No. 1042
注4

学校コード F141310111140
注3

設置年度 令和 6年度

計画の区分： 学部等連係課程実施基本組織の設置
注1

届出

注2
西九州大学 デジタル社会共創学環

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人永原学園
令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	事務局
職名・氏名	キョクチョウ シ キ ノブキ 局長・志岐 宣幸
電話番号	0952-52-4191
(夜間)	0952-52-4191
e-mail	syomu@nisikyu-u.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

デジタル社会共創学環

	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	39
7. その他全般的事項	40

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人永原学園

(2) 大 学 名

西九州大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒842-8585
佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(フクモ ユヅ) 福元 裕二 (平成 20年 4月)		
学 長	(フクモ ユヅ) 福元 裕二 (令和 5年 4月)		
学 環 長	(イト ヒロキ) 井本 浩之 (令和 6年 4月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)

令和6年度に報告する内容 → (6)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
デジタル社会 共創学環 学士(デジタル 社会共創学)	文学関係 社会学・社会 福祉学関係	4 年	60 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	240 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に入力してください。
・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分につい て	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	60人 60 () [-]	人 () [-]				
志願者数	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	57 [22]	() [-]				
受験者数	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	57 [22]	() [-]				
合格者数	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	57 [22]	() [-]				
B 入学者数	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	42 [21]	() [-]				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.70	-				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
・ 転入学生は記入しないでください。
・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。
(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
・ 「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	42 [21] (—)	— [—] (—)	
2 年次			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次					— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4 年次							— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	42 [21] (—)	— [—] (—)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
- また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	42 人	0 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{42} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<デジタル社会共創学環>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
キャリア 形成	あすなろう(初年次教育含)	1通	2			11	2	3			兼2
	地球環境・SDGs入門	1前	2			3					兼5
	関連職種連携入門	1前	2					1			兼12
	心理学入門	1・2前	2								兼1
	現代社会と倫理	1・2前		2		1					
	人間論と現代思想	1・2後		2		1					
	文学と言語	1・2前		2							兼1
	生涯学習論	1・2前		2							兼1
	肥前の歴史と文化	1・2後	2								兼1
	脳と認知科学	1・2後		2							兼1
	法学	1・2前		2							兼1
	日本国憲法	1・2後		2							兼1
	グローバル化と異文化共生	1・2前		2							兼1
	文化人類学	1・2後	2								兼1
	変わりゆく国際社会を生きる	1・2前		2		1					
	多文化社会学	1・2後	2			1					
	くらしと経済	1・2前		2							兼1
	ジェンダー論	1・2後		2							兼1
	生命のしくみ	1・2前		2							兼1
	生物と環境	1・2後		2							兼1
人間・文化・科学	身近な生活の化学	1・2前		2							兼1
	統計学の基礎	1・2前	2								兼1
	身近な世界の物理学	1・2前		2							兼1
	地球環境科学	1・2後		2							兼1
	健康スポーツ科学	1・2後		2							兼1
	フィットネス・スポーツ	1前		1							兼1
	ウェルネス・スポーツ	1後		1							兼1
共通教育科目											
外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	1前	1								兼2
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1								兼2
	SDGs英語	2後	1								
	World Issues(世界事情)	1・2前		2		1					兼6
	語学研修	1・2・3・4前・後		1		1					
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	日本語初級	1前		1							兼1
	日本語中級	1後		1							兼1
	日本語上級	1後		1							兼1
キャリア形成	データサイエンス入門	1前	2			2					兼7
	データサイエンス演習	1後	1			2		1			
専門教育科目	小計(39科目)	-	20	46	0	11	2	3	0	0	兼51
	社会福祉原論Ⅰ	1前	2								兼1
	社会福祉原論Ⅱ	1後		2							兼1
	高齢者福祉論	3前		2							兼1
	児童・家庭福祉論	2前		2							兼1
	社会保障論Ⅰ	2前	2								兼1
	社会保障論Ⅱ	2後		2							兼1
	精神保健学Ⅰ	3前		2		1					
	精神保健学Ⅱ	3後		2		1					
	科学的介護論	2後		2							兼3
	社会学と社会システム	1後	2			1					
	社会調査の基礎	3前		2		1					
	アジアの社会と文化	2後		2							兼1
	ダイバーシティ論	1後		2		2					兼1
	多文化共生論	3前		2							兼1
	NPO・NGO論	2後		2							兼1
	フィールドワーク論	2後		2							兼1
	小計(16科目)	-	6	26	0	4	0	0	0	0	兼11

【令和6年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
キャリア 形成	あすなろう(初年次教育含)	1通	2				5	2		1	兼14
	地球環境・SDGs入門	1前	2				2				兼6
	関連職種連携入門	1前		2			1		1		兼11
	心理学入門	1・2前	2								兼1
	現代社会と倫理	1・2前		2			1				
	人間論と現代思想	1・2後		2			1				
	文学と言語	1・2前		2							兼1
	生涯学習論	1・2後		2							兼1
	肥前の歴史と文化	1・2後	2								兼1
	脳と認知科学	1・2後		2							兼1
	法学	1・2前		2							兼1
	日本国憲法	1・2後		2							兼1
	グローバル化と異文化共生	1・2前		2							兼1
	文化人類学	1・2後	2								兼1
	変わりゆく国際社会を生きる	1・2後		2			1				兼1
	多文化社会学	1・2前	2				1				兼1
	くらしと経済	1・2前		2							兼1
	ジェンダー論	1・2後		2							兼1
	生命のしくみ	1・2前		2							兼1
	生物と環境	1・2後		2							兼1
人間・文化・科学	身近な生活の化学	1・2前		2							兼1
	統計学の基礎	1・2前	2								兼1
	身近な世界の物理学	1・2前		2							兼1
	地球環境科学	1・2後		2							兼1
	健康スポーツ科学	1・2後		2							兼2
	フィットネス・スポーツ	1前		1							兼5
	ウェルネス・スポーツ	1後		1							兼6
共通教育科目	栄養学へのとびら			1			1				兼11
	社会福祉学へのとびら			1			2				兼7
	スポーツ科学へのとびら			1			2				兼6
	リハビリテーション学へのとびら			1							兼12
	保育学・教育学へのとびら			1			1				兼9
	心理学へのとびら			1							兼7
	看護学へのとびら			1							兼12
	データサイエンスへのとびら			1			6	3	1	1	兼1
外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	1前	1					1			兼5
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1					1			兼5
	SDGs英語	2後	1					1			
	World Issues(世界事情)	1・2前		2				1			兼6
	語学研修	1・2・3・4前・後		1				1			
	中国語	1前・後		1							兼2
	韓国語	1後		1							兼1
	日本語初級	1前		1							兼1
	日本語中級	1後		1							兼1
	日本語上級	1後		1							兼1
キャリア形成	データサイエンス入門	1前	2				2	1	2	1	兼3
	データサイエンス演習	1後	1						1		兼4
専門教育科目	小計(48科目)	-	21	54	0	10	3	2	1	0	兼113
	社会福祉原論Ⅰ	1前	2								兼1
	社会福祉原論Ⅱ	1後		2							兼1
	高齢者福祉論	3前		2							兼1
	児童・家庭福祉論	2前		2							兼1
	社会保障論Ⅰ	2前	2								兼1
	社会保障論Ⅱ	2後		2							兼1</

【認可時又は届出時】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担		
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 教育 科目	心理学 関連	発達心理学Ⅰ	1前		2								兼1	
		発達心理学Ⅱ	1後		2								兼1	
		臨床心理学概論	2前	2									兼1	
		社会・集団心理学	2前		2								兼1	
		産業・組織心理学	3後		2								兼1	
		乳幼児心理学	3前		2								兼1	
		高齢者心理学	3後		2								兼1	
		福祉心理学	3後		2		1							
		仮想空間と心理学	4前	2			1						兼1	
		心理学と社会課題	2後	2			1						兼1	
		暮らしに潜む罠	1前	1			1							
		心理データ解析法	3前			2							兼1	
		フィールドワークスタディ	3前			2		1						
		小計(13科目)		-	7	18	0	1	0	0	0	0		兼7
	多文化 理解	異文化理解	1前			2								兼1
		観光学入門	3後			2								兼1
		日本文化理解	1後			2								兼1
		観光ビジネス論	1後			2								兼1
		ホテルビジネス論	2後			2								兼1
		旅行業務	2前			2								兼1
		マーケット論	3後			2								兼1
		TOEICⅠ	1前			1								兼1
		TOEICⅡ	1後			1								兼1
		Academic EnglishⅠ	2前			1								兼1
		Academic EnglishⅡ	2後			1								兼1
		グローバルスタディーズ	3前			2			1					兼5
		グローバル経済とビジネス	3前			2								兼1
		グローバルリーダーシップ	3前			2			1					
		English Camp	2後			4			2					
		留学準備演習	3通			2			2					
		留学	3通			4			2					
	小計(17科目)		-	0	34	0	0	2	0	0	0		兼14	
	ICT 活用	情報メディア入門	1前		2			1						兼1
		情報メディア演習Ⅰ	2前		1			1						
		情報メディア演習Ⅱ	2後		1			1						
		情報メディア演習Ⅲ	3前			1								兼1
		情報メディア演習Ⅳ	3後			1								兼1
		情報数学入門	1後			2		1						
		メタバース論	2前		2									兼1
		メタバース演習	2後			1								兼1
		データアナリティクス概論	3後			2								兼1
		情報ネットワーク論	2前			2								兼1
		情報ネットワーク演習	2後			1								兼1
		ソーシャルメディア論	1後			2								兼1
		AIとビッグデータ論	2前			2								兼1
		社会データ分析	2前			2								
社会データ分析演習		2後			1		1							
デジタルユニバーサルデザイン		2後			2								兼1	
コンピュータのための物理学		2後			2								兼1	
映像制作の基本		2後			2								兼1	
映像制作演習		3前			1								兼1	
プログラム基礎論		3前			2								兼1	
アルゴリズムとデータ構造		3前			2								兼1	
リモート学習支援技術		3前			2					1				
e-sports論		3前		2			1	1						
e-sports演習		3後			1			1						
ウェブコンテンツ演習		3後			1								兼1	
グラフィックデザイン演習		2後			1								兼1	
小計(26科目)		-	8	33	0	3	1	1	0	0		兼7		

【令和6年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 教育 科目	心理 学 関 連	発達心理学Ⅰ	1前		2								兼1
		発達心理学Ⅱ	1後		2								兼1
		臨床心理学概論	2前	2									兼1
		社会・集団心理学	2前		2								兼1
		産業・組織心理学	3後		2								兼1
		乳幼児心理学	3前		2								兼1
		高齢者心理学	3後		2								兼1
		福祉心理学	3後		2		1						
		仮想空間と心理学	4前	2			1						兼1
		心理学と社会課題	2後	2			1						兼1
		暮らしに潜む罠	1前	1			1						
		心理データ解析法	3前		2								兼1
		フィールドワークスタディ	3前		2		1						
		小計(13科目)	-	7	18	0	1	0	0	0	0		兼8
	多 文 化 理 解	異文化理解	1前		2								兼1
		観光学入門	3後		2								兼1
		日本文化理解	1後		2								
		観光ビジネス論	1後		2								兼1
		ホテルビジネス論	2後		2								兼1
		旅行業務	2前		2								兼1
		マーケット論	3後		2								兼1
		TOEICⅠ	1前		1								兼1
		TOEICⅡ	1後		1								兼1
		Academic EnglishⅠ	2前		1								兼1
		Academic EnglishⅡ	2後		1								兼1
		グローバルスタディーズ	3前		2		1						兼5
		グローバル経済とビジネス	3前		2								兼1
		グローバルリーダーシップ	3前		2		1						
	English Camp	2後		4		2							
	留学準備演習	3通		2		2							
	留学	3通		4		2							
	小計(17科目)	-	0	34	0	0	2	0	0	0		兼13	
	I C T 活 用	情報メディア入門	1前	2			1						兼1
		情報メディア演習Ⅰ	2前	1			1						
		情報メディア演習Ⅱ	2後	1			1						
		情報メディア演習Ⅲ	3前		1								兼1
		情報メディア演習Ⅳ	3後		1								兼1
		情報数学入門	1後		2		1						
		メタバース論	2前	2									兼1
		メタバース演習	2後		1								兼1
		データアナリティクス概論	3後		2								兼1
		情報ネットワーク論	2前		2								兼1
		情報ネットワーク演習	2後		1								兼1
		ソーシャルメディア論	1後		2								兼1
		AIとビッグデータ論	2前		2								兼1
		社会データ分析	2前		2		1						
		社会データ分析演習	2後		1		1						
デジタルユニバーサルデザイン論		2後		2								兼1	
コンピュータのための物理学		2後		2								兼1	
映像制作の基本		2後		2								兼1	
映像制作演習		3前		1								兼1	
プログラム基礎論		3前		2								兼1	
アルゴリズムとデータ構造		3前		2								兼1	
リモート学習支援技術		3前		2				1					
e-sports論		3前	2			1	1						
e-sports演習		3後		1			1						
ウェブコンテンツ演習		3後		1								兼1	
グラフィックデザイン演習		2後		1								兼1	
小計(26科目)	-	8	33	0	3	1	1	0	0		兼7		

【認可時又は届出時】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 教育 科目	コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン	文字と言葉	1後		2								兼1
		音楽とコミュニケーション	1前		2								兼1
		デジタル・コミュニケーション	1後	2			1	1					
		デジタル・コミュニケーション	2前		1			1					
		デジタル・コミュニケーション	4後		2		1	1					
		プレゼンテーション論	2前	2									兼1
		テレコミュニケーション倫理	2後	2			1						
		教育とコミュニケーション	1前		2		2						兼1
		身体コミュニケーション	2後		2								兼1
		レクリエーション支援論	2前		2		1						兼1
		レクリエーション支援演習	2後		2		1						兼1
	小計(11科目)	-	6	15	0	5	1	0	0	0		兼5	
	課 題 探 求	地域デザイン論	2後		2								兼1
		地域の食産業	2前		2								兼8
		食品栄養学	2後		2		1						
		ボランティア活動	2・3通		2		3	1					
		インターンシップ	3通		2		4						兼1
		PBL特別演習	3前	2			6	2	3				兼1
		PBLゼミナールⅠ	2前	1			8	3					兼1
		PBLゼミナールⅡ	2後	1			8	3					兼1
		PBLゼミナールⅢ	3前	1			7	3					兼1
		PBLゼミナールⅣ	3後	1			7	3					兼1
		卒業研究	4通		4		7	2					兼1
		小計(11科目)	-	10	10	0	11	3	3	0	0		兼10
小計(94科目)		-	37	136	0	11	3	3	0	0		兼53	
合計(133科目)			-	57	182	0	11	3	3	0	0	兼92	
卒業要件及び履修方法													
【卒業要件】: 下記履修方法により、総計124単位以上を修得。 ●グローバルコース ○共通教育科目群から、必修科目20単位、選択科目8単位以上修得。 ○専門教育科目群から、必修科目37単位、コース必修科目16単位、選択科目(コース必修科目を除く)43単位以上修得。 <コース必修科目> TOEICⅠ(1)、TOEICⅡ(1)、Academic EnglishⅠ(1)、Academic EnglishⅡ(1)、 グローバルスタディーズ(2)、English Camp(4)、留学準備演習(2)、留学(4) ●情報メディアコース ○共通教育科目群から、必修科目20単位、選択科目8単位以上修得。 ○専門教育科目群から、必修科目37単位、コース必修科目14単位、選択科目(コース必修科目を除く)45単位以上修得。 <コース必修科目> 情報数学入門(2)、情報ネットワーク論(2)、社会データ分析(2)、プログラム基礎論 (2)、文字と言葉(2)、身体コミュニケーション(2)、インターンシップ(2) (履修科目の登録の上限: 46単位(年間))													

【令和6年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 教育 科目	コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン	文字と言葉	1後		2							兼1
		音楽とコミュニケーション	1前		2							兼1
		デジタル・コミュニケーション支援学概論	1後	2			1	1				
		デジタル・コミュニケーション支援学演習	2前		1			1				
		デジタル・コミュニケーション支援学特論	4後		2		1	1				
		プレゼンテーション論	2前	2								兼1
		テレコミュニケーション倫理	2後	2			1					
		教育とコミュニケーション	1前		2		2					兼1
		身体コミュニケーション	2後		2							兼1
		レクリエーション支援論	2前		2		1					兼1
		レクリエーション支援演習	2後		2		1					兼1
	小計(11科目)	-	6	15	0	5	1	0	0	0	兼6	
	課 題 探 求	地域デザイン論	2後		2							兼1
		地域の食産業	2前		2							兼8
		食品栄養学	2後		2		1					
		ボランティア活動	2・3通		2		3	1				
		インターンシップ	3通		2		4					兼1
		PBL特別演習	3前	2			6	2	3			兼1
		PBLゼミナールⅠ	2前	1			8	3				兼1
		PBLゼミナールⅡ	2後	1			8	3				兼1
		PBLゼミナールⅢ	3前	1			7	3				兼1
		PBLゼミナールⅣ	3後	1			7	3				兼1
		卒業研究	4通		4		7	2				兼1
	小計(11科目)	-	10	10	0	11	3	3	0	0	兼11	
小計(94科目)	-	37	136	0	11	3	3	0	0	兼53		
合計(142科目)		-	58	190	0	11	3	3	1	0	兼150	
卒業要件及び履修方法												
【卒業要件】: 下記履修方法により、総計125単位以上を修得。原則として、GPA(*)2.0以上。 *Grade Point Average												
●グローバルコース ○共通教育科目群から、必修科目21単位、選択科目8単位以上修得。 ○専門教育科目群から、必修科目37単位、コース必修科目16単位、選択科目(コース必修科目を除く)43単位以上修得。												
<コース必修科目> TOEICⅠ(1)、TOEICⅡ(1)、Academic EnglishⅠ(1)、Academic EnglishⅡ(1)、 グローバルスタディーズ(2)、English Camp(4)、留学準備演習(2)、留学(4)												
●情報メディアコース ○共通教育科目群から、必修科目21単位、選択科目8単位以上修得。 ○専門教育科目群から、必修科目37単位、コース必修科目14単位、選択科目(コース必修科目を除く)45単位以上修得。												
<コース必修科目> 情報数学入門(2)、情報ネットワーク論(2)、社会データ分析(2)、プログラム基礎論 (2)、文字と言葉(2)、身体コミュニケーション(2)、インターンシップ(2)												
(履修科目の登録の上限: 46単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために**未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」**として記入してください。
 - ・ **1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。**
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「【臨地実務実習】」による授業科目には「【臨】」、「【連携実務演習】」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
- (例: 記載順) 【認可時又は届出時】→【令和6年度】(新)→【令和5年度】(新)→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度】(旧)→【令和5年度】(旧)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和6年度】

- ・開講期変更により、以下の科目の配当年次を変更
 - ・生涯学習論 ・中国語
- ・教育内容の充実を図るために、共通教育科目に科目区分追加し、新規科目を追加
 - ＜高大接続科目＞
 - ・栄養学へのとびら ・社会福祉学へのとびら ・スポーツ科学へのとびら ・リハビリテーション学へのとびら
 - ・保育学・教育学へのとびら ・心理学へのとびら ・看護学へのとびら ・データサイエンスへのとびら
 - ＜情報リテラシー＞
 - ・情報処理演習(令和7年度より開講のため、担当教員未定)
- ・上記科目追加に伴い、提供科目数及び単位数を変更
 - 共通教育科目数：39科目→48科目
 - 共通教育単位数：必修20単位→21単位、選択：46単位→54単位
 - 合計科目数：133科目→142科目
 - 合計単位数：必修57科目→58単位、選択：182科目→190単位
- ・教育的効果を考慮し、以下科目の専任教員及び兼任・兼任の配置を変更

・あすなろう（初年次教育含）	・地球環境・SDGs入門	・関連職種連携入門	・変わりゆく国際社会を生きる	・多文化社会学
・健康スポーツ科学	・フィットネス・スポーツ	・ウェルネス・スポーツ	・英語コミュニケーションⅠ	・英語コミュニケーションⅡ
・中国語	・データサイエンス入門	・データサイエンス演習		
- ・上記の教員配置変更に伴い、共通教育科目の教員数（実数）の小計・合計を変更
- ・兼任講師の配置変更により、専門科目の教員数（実数）の小計・合計を変更
- ・情報処理演習を必修科目として追加したため、共通教育科目の卒業要件単位数および卒業要件合計単位数について、1単位増加
- ・卒業要件として、「原則として、GPA(*)2.0以上 *Grade Point Average」を追加。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
33 科目	100 科目	0 科目	133 科目	34 科目 [1]	108 科目 [8]	0 科目 []	142 科目 [9]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{133} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	西九州大学短期大学部 (必要面積3,800㎡) と共用 借用面積3971.07㎡ 借用期間：30年 登記変更のため(6)			
	校 舎 敷 地	39,878 ㎡	14,833 ㎡	0 ㎡	54,711 ㎡				
	運動場用地	18,813 ㎡	7,804 7,630 ㎡	0 ㎡	26,617 26,443 ㎡				
	小 計	58,691 ㎡	22,637 22,463 ㎡	0 ㎡	81,328 81,154 ㎡				
	そ の 他	65,243 ㎡	3,869 ㎡	0 ㎡	69,112 ㎡				
	合 計	123,934 ㎡	26,506 26,332 ㎡	0 ㎡	150,440 150,266 ㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	西九州大学短期大学部 (必要面積3,900㎡) と共用			
		29,227 ㎡ (29,227 ㎡)	19,682 ㎡ (19,682 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	48,909 ㎡ (48,909 ㎡)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 学生のPC必修化に伴い、 情報処理室を講義室へ変 更(6)		
		51 50 室	68 室	44 室	3 -4 室 (補助職員 3 人)	1 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		令和6年4月 専任助教1名を新規 採用のため(6)		
		デジタル社会共創学環			18 -17 室				
(5)図書・設備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体	
	デジタル社会共 創学環	164,317 [11,037] (145,146 [10,976])	225 [10] (254 [17])	10 [8] (15 [11])	5,189 (4,676)	22,639 (22,609)	216 (246)		
	計	164,317 [11,037] (145,146 [10,976])	225 [10] (254 [17])	10 [8] (15 [11])	5,189 (4,676)	22,639 (22,609)	216 (246)		
(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		1,960 ㎡		283 席		204,000 冊			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		3,267 ㎡		トレーニングセンター 242 ㎡	テニスコート 2 面	多目的コート 1 面	弓道場 89 ㎡		
(8)経費の見 積り及び 維持方法 の 概 要	経費の 見 積 り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員 1 人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	500千円	1,000千円	1,000千円	
		共 同 研 究 費 等	0千円	0千円	設備購入費	10,000千円	8,000千円	5,000千円	
	学生 1 人当 り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		1,120千円	930千円	940千円	950千円	－ 千円	－ 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、雑収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	西 九 州 大 学										収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考			
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度					
健康栄養学部	4	120	0	480	-	0.75		-	平成26	-				
健康栄養学科	4	120	0	480	学士 (健康栄養学)	0.75		-	平成26	佐賀県神埼市神埼町尾崎4490番地9	デジタル社会共創学環の内数【30】			
健康福祉学部	4	130	3年次10	540	-	0.67		-	平成13	-				
社会福祉学科	4	80	3年次10	340	学士 (社会福祉学)	0.47		-	昭和49	同上	デジタル社会共創学環の内数【30】			
スポーツ健康福祉学科	4	50	0	200	学士 (スポーツ健康福祉学)	1.01		-	平成26	同上				
リハビリテーション学部	4	80	0	320	-	0.77		-	平成19	-				
リハビリテーション学科	4	80	0	320	-	0.77		-	平成19	同上				
理学療法学専攻	4	40	0	160	学士 (理学療法学)	1.06		-	平成19	同上				
作業療法学専攻	4	40	0	160	学士 (作業療法学)	0.48		-	平成19	同上				
子ども学部	4	120	3年次10	500	-	1.03		-	平成21	-				
子ども学科	4	80	3年次10	340	学士 (子ども学)	0.99		-	平成21	佐賀県佐賀市神園三丁目18番15号				
心理カウンセリング学科	4	40	0	160	学士 (臨床心理学)	1.11		-	平成26	同上				
看護学部	4	90	0	360	-	1.01		-	平成30	-				
看護学科	4	90	0	360	学士 (看護学)	1.01		-	平成30	佐賀県小城市小城町176番地27				
デジタル社会共創学環	4	60	-	-	学士 (デジタル社会共創学)	-		-	令和6	佐賀県神埼市神埼町尾崎4490番地9				
大学全体	-	540	20	2,200	-	-		-	-	-				

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
- なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
- ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
- 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
- ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
- ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
- 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
- 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
- ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
- なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
- ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
- ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
- ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

<デジタル社会共創学環>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 教授 (学環長)		井本 浩之 ＜令和6年4月＞ 文学修士※ あすなろう(初年次教育舎) 現代社会と倫理 人間論と現代思想 テレコミュニケーション倫理 ポランティア活動 PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究
		古賀 浩二 ＜令和6年4月＞ 博士(情報工学) あすなろう(初年次教育舎) データサイエンス入門※ 情報メディア入門※ 情報メディア演習Ⅰ 情報メディア演習Ⅱ PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究
専 教授		黒田 研二 ＜令和6年4月＞ 医学博士 あすなろう(初年次教育舎) データサイエンス入門※ データサイエンス演習 精神保健学Ⅰ 精神保健学Ⅱ インターンシップ
		小浦 誠吾 ＜令和6年4月＞ 博士(農学) あすなろう(初年次教育舎) e-sports論※ デジタル・コミュニケーション支援学概論※ デジタル・コミュニケーション支援学特論※ インターンシップ
専 教授		田中 豊治 ＜令和6年4月＞ 博士(社会学) あすなろう(初年次教育舎) 多文化社会学 変わりゆく国際社会を生きる 社会学と社会システム 社会調査の基礎 PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究
		山田 力也 ＜令和6年4月＞ 修士(体育学) あすなろう(初年次教育舎) レクリエーション支援論※ レクリエーション支援演習※ インターンシップ
専 教授		菅原 正志 ＜令和6年4月＞ 医学博士 あすなろう(初年次教育舎) 地球環境・SDGs入門※ 教育とコミュニケーション ポランティア活動 PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究
		橋本 健夫 ＜令和6年4月＞ 理学修士※ あすなろう(初年次教育舎) 地球環境・SDGs入門※ ダイバーシティ論 教育とコミュニケーション ポランティア活動 PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究

【令和6年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 教授 (学環長)		井本 浩之 ＜令和6年4月＞ 文学修士※ あすなろう(初年次教育舎) 現代社会と倫理 人間論と現代思想 テレコミュニケーション倫理 ポランティア活動 PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究 データサイエンスへのとびら※
		古賀 浩二 ＜令和6年4月＞ 博士(情報工学) あすなろう(初年次教育舎) データサイエンス入門 情報メディア入門※ 情報メディア演習Ⅰ 情報メディア演習Ⅱ PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究 データサイエンスへのとびら※
専 教授		黒田 研二 ＜令和6年4月＞ 医学博士 精神保健学Ⅰ 精神保健学Ⅱ インターンシップ 看護職進路入門※ 社会福祉学へのとびら※
		小浦 誠吾 ＜令和6年4月＞ 博士(農学) e-sports論※ デジタル・コミュニケーション支援学概論※ デジタル・コミュニケーション支援学特論※ インターンシップ
専 教授		田中 豊治 ＜令和6年4月＞ 博士(社会学) 多文化社会学 変わりゆく国際社会を生きる 社会学と社会システム 社会調査の基礎 PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究 社会福祉学へのとびら※
		山田 力也 ＜令和6年4月＞ 修士(体育学) レクリエーション支援論※ レクリエーション支援演習※ インターンシップ スポーツ科学へのとびら※
専 教授		菅原 正志 ＜令和6年4月＞ 医学博士 あすなろう(初年次教育舎) 地球環境・SDGs入門※ 教育とコミュニケーション ポランティア活動 PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究 スポーツ科学へのとびら※ データサイエンスへのとびら※
		橋本 健夫 ＜令和6年4月＞ 理学修士※ あすなろう(初年次教育舎) 地球環境・SDGs入門※ ダイバーシティ論 教育とコミュニケーション ポランティア活動 PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究 データサイエンスへのとびら※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	三嶋 敏雄 ＜令和6年4月＞ 学術博士	専	教授	三嶋 敏雄 ＜令和6年4月＞ 学術博士
		あすなろう（初年次教育舎） 食品栄養学 インターンシップ PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ			食品栄養学 インターンシップ PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ 栄養学へのとびら※
専	教授	草場 聡宏 ＜令和6年4月＞ 修士（学校教育学）	専	教授	草場 聡宏 ＜令和6年4月＞ 修士（学校教育学）
		あすなろう（初年次教育舎） 地球環境・SDGs入門※ データサイエンス演習 情報数学入門 社会データ分析 社会データ分析演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究			情報数学入門 社会データ分析 社会データ分析演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究 データサイエンス入門 体育学・教育学へのとびら※ データサイエンスへのとびら※
専	教授	利光 恵 ＜令和6年4月＞ 修士（教育心理学）	専	教授	利光 恵 ＜令和6年4月＞ 修士（教育心理学）
		あすなろう（初年次教育舎） ダイバーシティ論 福祉心理学 仮想空間と心理学※ 心理学と社会課題※ 暮らしに潜む農 フィールドワークスタディ PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究			あすなろう（初年次教育舎） ダイバーシティ論 福祉心理学 仮想空間と心理学※ 心理学と社会課題※ 暮らしに潜む農 フィールドワークスタディ PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究 データサイエンスへのとびら※
専	准教授	福元 健志 ＜令和6年4月＞ 博士（学術）	専	准教授	福元 健志 ＜令和6年4月＞ 博士（学術）
		あすなろう（初年次教育舎） English Camp 留学準備演習 留学 ボランティア活動 PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究			あすなろう（初年次教育舎） English Camp 留学準備演習 留学 ボランティア活動 PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究 データサイエンスへのとびら※
専	准教授	植田 友貴 ＜令和6年4月＞ 博士（リネ'リサーチン学）	専	准教授	植田 友貴 ＜令和6年4月＞ 博士（リネ'リサーチン学）
		e-sports論※ e-sports演習 デジタル・コミュニケーション支援学概論※ デジタル・コミュニケーション支援学演習 デジタル・コミュニケーション支援学特論※ PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ			e-sports論※ e-sports演習 デジタル・コミュニケーション支援学概論※ デジタル・コミュニケーション支援学演習 デジタル・コミュニケーション支援学特論※ PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ データサイエンス入門 データサイエンスへのとびら※
専	准教授	園部 ニコル ＜令和6年4月＞ Master of Applied Linguistics （豪州）	専	准教授	園部 ニコル ＜令和6年4月＞ Master of Applied Linguistics （豪州）
		あすなろう（初年次教育舎） SDGs英語 World Issues(世界事情)※ 語学研修 グローバルスタディーズ※ グローバルリーダーシップ English Camp 留学準備演習 留学 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究			あすなろう（初年次教育舎） SDGs英語 World Issues(世界事情)※ 語学研修 グローバルスタディーズ※ グローバルリーダーシップ English Camp 留学準備演習 留学 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ データサイエンスへのとびら※
専	講師	大塚 和良 ＜令和6年4月＞ 修士（医科学）	専	講師	大塚 和良 ＜令和6年4月＞ 博士（医科学）
		あすなろう（初年次教育舎） データサイエンス演習 リモート学習支援技術 PBL特別演習			リモート学習支援技術 PBL特別演習 データサイエンス入門
専	講師	葛原 誠太 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）	専	講師	葛原 誠太 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		あすなろう（初年次教育舎） 関連職種連携入門※ PBL特別演習			関連職種連携入門※ PBL特別演習 データサイエンス入門 データサイエンスへのとびら※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	講師	今井 里佳 ＜令和6年4月＞ 博士(食物栄養学)	専	講師	今井 里佳 ＜令和8年4月＞ 博士(食物栄養学)
		あすなろう(初年次教育舎) PBL特別演習			PBL特別演習
			専	助教	小形 幸平 ＜令和6年4月＞ 修士(学術)
					あすなろう(初年次教育舎) データサイエンス入門 データサイエンス演習 データサイエンスへのとびら※
兼任	教授	安部 恵代 ＜令和6年4月＞ 博士(医学)	兼任	教授	安部 恵代 ＜令和6年4月＞ 博士(医学)
		データサイエンス入門※			栄養学へのとびら※
兼任	教授	安藤(北村) 満代 ＜令和6年4月＞ 博士(文学)	兼任	教授	安藤(北村) 満代 ＜令和6年4月＞ 博士(文学)
		関連職種連携入門※ 臨床心理学概論			臨床心理学概論 心理学へのとびら※
兼任	教授	安德 弥生 ＜令和7年10月＞ 修士(健康福祉学)	兼任	教授	安德 弥生 ＜令和6年4月＞ 修士(健康福祉学)
		科学的介護論※			科学的介護論※ 社会福祉学へのとびら※
兼任	教授	上野 景三 ＜令和6年4月＞ 教育学修士※	兼任	教授	上野 景三 ＜令和6年4月＞ 教育学修士※
		生涯学習論			生涯学習論 あすなろう(初年次教育舎)
兼任	教授	大田尾 浩 ＜令和6年4月＞ 博士(保健学)	兼任	教授	大田尾 浩 ＜令和6年4月＞ 博士(保健学)
		関連職種連携入門※			関連職種連携入門※ リハビリテーション学へのとびら※
兼任	教授	加登田 恵子 ＜令和7年4月＞ 社会学修士※			
		児童・家庭福祉論			
兼任	教授	草野 洋介 ＜令和6年4月＞ 博士(医学)			
		関連職種連携入門※			
兼任	教授	坂田 周一 ＜令和6年4月＞ 博士(社会福祉学)	兼任	教授	坂田 周一 ＜令和6年4月＞ 博士(社会福祉学)
		社会福祉原論Ⅰ 社会福祉原論Ⅱ			社会福祉原論Ⅰ 社会福祉原論Ⅱ
兼任	教授	宮原 洋八 ＜令和6年4月＞ 博士(体育学)			
		データサイエンス入門※			
兼任	教授	安田 みどり ＜令和6年4月＞ 博士(理学)	兼任	教授	安田 みどり ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		身近な生活の化学 地域の食産業※			身近な生活の化学 地域の食産業※ あすなろう(初年次教育舎) 栄養学へのとびら※
兼任	教授	柳田 晃良 ＜令和6年4月＞ 農学博士			
		World Issues(世界事情)※			
兼任	教授	横尾 美智代 ＜令和6年4月＞ 博士(医学)	兼任	教授	横尾 美智代 ＜令和6年4月＞ 博士(医学)
		データサイエンス入門※			栄養学へのとびら※
			兼任	教授	大川 裕行 ＜令和8年4月＞ 博士(医学)
					リハビリテーション学へのとびら※
			兼任	教授	岡嶋 一郎 ＜令和6年4月＞ 修士(教育心理学)※
					心理学へのとびら※
			兼任	教授	木堂 ゆかり ＜令和6年4月＞ 博士(スポーツ健康科学)
					あすなろう(初年次教育舎)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
			兼担	教授	久野 一恵 ＜令和6年4月＞ 医学博士 栄養学へのとびら※
					久保 温子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学） リハビリテーション学へのとびら※
			兼担	教授	栗原 淳 ＜令和6年4月＞ 体育学修士 スポーツ科学へのとびら※
					小林 幸恵 ＜令和6年4月＞ 博士（生活支援学） 看護学へのとびら※
			兼担	教授	近藤 芳昭 ＜令和6年4月＞ 体育学士 フィットネス・スポーツ ウェルネス・スポーツ スポーツ科学へのとびら※
					高尾 兼利 ＜令和6年4月＞ 文学修士 保育学・教育学へのとびら※
			兼担	教授	滝 麻衣 ＜令和6年4月＞ 修士（医療経営・管理学）※ 看護学へのとびら※
					田中 麻里 ＜令和6年4月＞ 教育学修士 保育学・教育学へのとびら※
			兼担	教授	中島 洋子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学） 看護学へのとびら※
					西村 喜文 ＜令和6年4月＞ 博士（臨床心理学） 心理学へのとびら※
			兼担	教授	原口 健三 ＜令和6年4月＞ 博士（医学） リハビリテーション学へのとびら※
					日野 久美子 ＜令和6年4月＞ 修士（教育学） 保育学・教育学へのとびら※
			兼担	教授	福元 裕二 ＜令和6年4月＞ 農学博士 あすなろう（初年次教育会）
					福山 隆志 ＜令和6年4月＞ 家政学士 栄養学へのとびら※
			兼担	教授	堀田 健子 ＜令和6年4月＞ 博士（栄養科学） 栄養学へのとびら※
					四元 博晃 ＜令和6年4月＞ 博士（農学） 栄養学へのとびら※
兼担	准教授	赤川 力 ＜令和6年4月＞ 博士（人間科学） 地球環境・SDGs入門※	兼担	准教授	赤川 力 ＜令和6年4月＞ 博士（人間科学） 地球環境・SDGs入門※ あすなろう（初年次教育会） 心理学へのとびら※
兼担	准教授	飯盛（小倉） 啓生 ＜令和6年10月＞ 博士（理学） 地球環境科学	兼担	准教授	飯盛（小倉） 啓生 ＜令和6年4月＞ 博士（理学） 地球環境科学 あすなろう（初年次教育会）
兼担	准教授	占部 尊士 ＜令和6年4月＞ 博士（保健福祉学） 地球環境・SDGs入門※	兼担	准教授	占部 尊士 ＜令和6年4月＞ 博士（保健福祉学） 地球環境・SDGs入門※ あすなろう（初年次教育会） 社会福祉学へのとびら※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	江口 賀子 ＜令和7年10月＞ 修士（健康福祉学） 科学的介護論※
兼任	准教授	大家 さとみ ＜令和6年4月＞ 修士（学術） 関連職種連携入門※
兼任	准教授	岡部 由紀夫 ＜令和6年7月4月＞ 修士（健康福祉学） 関連職種連携入門※
兼任	准教授	押川 武志 ＜令和6年4月＞ 博士（保健医療学） 関連職種連携入門※
兼任	准教授	加藤 稔子 ＜令和6年4月＞ 修士（健康福祉学） 関連職種連携入門※ 科学的介護論※
兼任	准教授	木場 千春 ＜令和7年4月＞ 博士（7D ミニストレーション） 社会保障論Ⅰ 社会保障論Ⅱ
兼任	准教授	小松 洋平 ＜令和6年4月＞ 博士（臨床心理学） 地球環境・SDGs入門※ データサイエンス入門※
兼任	准教授	斎木 まど香 ＜令和6年4月＞ 博士（iAFM生命科学） 地球環境・SDGs入門※
兼任	准教授	櫻井 京子 ＜令和6年4月＞ 修士（児童学） 関連職種連携入門※
兼任	准教授	南里 玲子 ＜令和6年4月＞ 専門学校卒 地球環境・SDGs入門※
兼任	准教授	久野 隆裕 ＜令和6年4月＞ 教育学修士 関連職種連携入門※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	江口 賀子 ＜令和6年4月＞ 修士（健康福祉学） 科学的介護論※ 社会福祉学へのとびら※
兼任	准教授	岡部 由紀夫 ＜令和6年4月＞ 修士（健康福祉学） 関連職種連携入門※ 社会福祉学へのとびら※
兼任	准教授	押川 武志 ＜令和6年4月＞ 博士（保健医療学） 関連職種連携入門※ リハビリテーション学へのとびら※
兼任	准教授	加藤 稔子 ＜令和6年4月＞ 修士（健康福祉学） 関連職種連携入門※ 科学的介護論※ 社会福祉学へのとびら※
兼任	教授	小松 洋平 ＜令和6年4月＞ 博士（臨床心理学） 地球環境・SDGs入門※ リハビリテーション学へのとびら※
兼任	准教授	斎木 まど香 ＜令和6年4月＞ 博士（iAFM生命科学） 地球環境・SDGs入門※ 栄養学へのとびら※
兼任	准教授	櫻井 京子 ＜令和6年4月＞ 修士（児童学） 関連職種連携入門※ 保育学・教育学へのとびら※
兼任	准教授	久野 隆裕 ＜令和6年4月＞ 教育学修士 関連職種連携入門※ 保育学・教育学へのとびら※
兼任	准教授	新井 馨 ＜令和6年4月＞ 博士（教育学） 保育学・教育学へのとびら※
兼任	准教授	池田 佐知子 ＜令和6年4月＞ 修士（臨床心理学）※ 看護学へのとびら※
兼任	准教授	市川 浩 ＜令和6年4月＞ 修士（体育科学）※ ウェルネス・スポーツ スポーツ科学へのとびら※
兼任	准教授	藤戸 麻美 ＜令和6年4月＞ 博士（医学） 看護学へのとびら※
兼任	准教授	川島 睦子 ＜令和6年4月＞ 修士（看護学） 看護学へのとびら※
兼任	准教授	岸川 由紀 ＜令和6年4月＞ 博士（医学） リハビリテーション学へのとびら※
兼任	准教授	佐々木 隆夫 ＜令和6年4月＞ 博士（社会福祉学） 社会福祉学へのとびら※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
			兼担	准教授	末次 繪里子 ＜令和6年4月＞ 博士（教育学） 関連職種連携入門※ 心理学へのとびら※
			兼担	准教授	鈴木 雅子 ＜令和6年4月＞ 博士（公衆衛生学） 関連職種連携入門※ 看護学へのとびら※
			兼担	准教授	中島 慎一 ＜令和6年4月＞ 修士（教育学） あすなろう（初年次教育舎） ウェルネス・スポーツ スポーツ科学へのとびら※
			兼担	准教授	中国 照美 ＜令和6年4月＞ 修士（人間環境学）※ 心理学へのとびら※
			兼担	准教授	中村 雅俊 ＜令和6年4月＞ 博士（人間健康科学） あすなろう（初年次教育舎） リハビリテーション学へのとび ら※
			兼担	准教授	西尾 美登里 ＜令和6年4月＞ 博士（看護学） 看護学へのとびら※
			兼担	准教授	八谷 瑞紀 ＜令和6年4月＞ 博士（医学） リハビリテーション学へのとび ら※
			兼担	准教授	平原 直子 ＜令和6年4月＞ 修士（看護学） 看護学へのとびら※
			兼担	准教授	藤田 史恵 ＜令和6年4月＞ 博士（医学） 看護学へのとびら※
			兼担	准教授	藤原 和彦 ＜令和6年4月＞ 博士（保健医療学） あすなろう（初年次教育舎） リハビリテーション学へのとび ら※
			兼担	准教授	松谷 慎也 ＜令和6年4月＞ 博士（保健医療学） リハビリテーション学へのとび ら※
			兼担	准教授	松崎 泰代 ＜令和6年4月＞ 博士（健康科学） 栄養学へのとびら※
			兼担	准教授	宮崎 耕一 ＜令和6年4月＞ 教育学士 地球環境・SDGs入門※ 保育学・教育学へのとびら※
			兼担	准教授	横田 聡 ＜令和6年4月＞ 修士（人間関係学） 保育学・教育学へのとびら※
兼担	講師	宇賀神 一 ＜令和6年4月＞ 博士（教育学） 文学と言語	兼担	講師	宇賀神 一 ＜令和6年4月＞ 博士（教育学） 文学と言語 保育学・教育学へのとびら※
兼担	講師	船元 智子 ＜令和6年4月＞ 修士（人間環境学） 関連職種連携入門※	兼担	講師	船元 智子 ＜令和6年4月＞ 修士（人間環境学） 関連職種連携入門※ 栄養学へのとびら※
兼担	講師	松尾 萌美 ＜令和6年10月＞ 博士（医学） 脳と認知科学	兼担	講師	松尾 萌美 ＜令和6年4月＞ 博士（医学） 脳と認知科学 リハビリテーション学へのとび ら※
兼担	講師	山口 裕嗣 ＜令和6年4月＞ 博士（人間環境学） 関連職種連携入門※	兼担	講師	山口 裕嗣 ＜令和6年4月＞ 博士（人間環境学） 関連職種連携入門※ フィットネス・スポーツ スポーツ科学へのとびら※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	助教	南里 真美 ＜令和6年4月＞ 修士（生活支援学） 関連職種連携入門※
兼任	講師	川邊 浩史 ＜令和6年4月＞ 修士（教育学）※ あすなろう（初年次教育舎） ダイバーシティ論 教育とコミュニケーション インターンシップ
兼任	講師	高元 宗一郎 ＜令和6年4月＞ 修士（理学） あすなろう（初年次教育舎） 情報メディア入門※ 情報メディア演習Ⅲ 情報メディア演習Ⅳ PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究
兼任	講師	平田 孝治 ＜令和6年4月＞ 博士（農学） 異文化理解
兼任	講師	古賀 靖之 ＜令和6年4月＞ 教育学修士 心理学入門
兼任	講師	伊藤 昭弘 ＜令和6年10月＞ 博士（文学） 肥前の歴史と文化
兼任	講師	孫 友容 ＜令和6年4月＞ 博士（法学） 法学
兼任	講師	中山 亜紀 ＜令和6年10月＞ 法学修士※ 日本国憲法
兼任	講師	荒木 雪葉 ＜令和6年4月＞ 博士（国際文化） グローバル化と異文化共生
兼任	講師	永吉 守 ＜令和6年4月＞ 博士（国際文化） 文化人類学 フィールドワーク論 多文化共生論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大川内 鉄二 ＜令和6年4月＞ 博士（医学） あすなろう（初年次教育舎）
兼任	講師	大坪 奈保 ＜令和6年4月＞ 修士（看護学） 看護学へのとびら※
兼任	講師	甲木 秀典 ＜令和6年4月＞ 修士（心理学） スポーツ科学へのとびら※
兼任	講師	土井 幸治 ＜令和6年4月＞ 博士（保健福祉学） 児童・家庭福祉論 社会福祉学へのとびら※
兼任	講師	三隅 幸子 ＜令和6年4月＞ 修士（栄養科学） 栄養学へのとびら※
兼任	講師	渡辺 直子 ＜令和6年4月＞ 修士（看護学） 地球環境・SDGs入門※ 看護学へのとびら※
兼任	講師	南里 真美 ＜令和6年4月＞ 修士（生活支援学） 関連職種連携入門※
兼任	助教	松本 麻希 ＜令和6年4月＞ 修士（健康福祉学） 心理学へのとびら※
兼任	講師	川邊 浩史 ＜令和6年4月＞ 修士（教育学）※ ダイバーシティ論 教育とコミュニケーション インターンシップ データサイエンス演習
兼任	講師	高元 宗一郎 ＜令和6年4月＞ 修士（理学） 情報メディア入門※ 情報メディア演習Ⅲ 情報メディア演習Ⅳ PBL特別演習 PBLゼミナールⅠ PBLゼミナールⅡ PBLゼミナールⅢ PBLゼミナールⅣ 卒業研究 データサイエンス入門 データサイエンスへのとびら※
兼任	講師	平田 孝治 ＜令和6年4月＞ 博士（農学） 異文化理解
兼任	講師	古賀 靖之 ＜令和6年4月＞ 教育学修士 心理学入門
兼任	講師	伊藤 昭弘 ＜令和6年10月＞ 博士（文学） 肥前の歴史と文化
兼任	講師	荒木 雪葉 ＜令和6年4月＞ 博士（国際文化） グローバル化と異文化共生
兼任	講師	永吉 守 ＜令和6年4月＞ 博士（国際文化） 文化人類学 フィールドワーク論 多文化共生論

専任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	権藤 幸憲 ＜令和6年4月＞ 経済学修士 くらしと経済
兼任	講師	藤田 由美子 ＜令和6年10月＞ 博士(教育学) ジェンダー論
兼任	講師	辻田 忠志 ＜令和6年4月＞ 博士(バイオサイエンス) 生命のしくみ
兼任	講師	北垣 浩志 ＜令和6年10月＞ 博士(農学) 生物と環境
兼任	講師	上山 和俊 ＜令和6年4月＞ 経済学修士※ 統計学の基礎
兼任	講師	福井 市男 ＜令和6年4月＞ 学士 身近な世界の物理学
兼任	講師	元安 陽一 ＜令和6年10月＞ 修士(人間科学)※ 健康スポーツ科学 フィットネス・スポーツ ウェルネス・スポーツ
兼任	講師	Eric Raschke ＜令和6年4月＞ Bachelor of Arts(7月)※ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ World Issues(世界事情)※ グローバルスタディーズ※
兼任	講師	Gareth Newbold ＜令和6年4月＞ BA(Hons) Primary Education (4月)※ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ World Issues(世界事情)※ グローバルスタディーズ※
兼任	講師	Brown Patricia Sharon ＜令和6年4月＞ Bachelor of Arts(7月)※ World Issues(世界事情)※ グローバルスタディーズ※
兼任	講師	Derbel Mohamed Rami ＜令和6年4月＞ 博士(工学) World Issues(世界事情)※ グローバルスタディーズ※
兼任	講師	徳永 ヲヱラ ＜令和6年4月＞ Bachelor of Arts(2027) World Issues(世界事情)※ 日本文化理解
兼任	講師	周 嵐 ＜令和6年4月＞ 博士(学術) 中国語 日本語初級 日本語中級 日本語上級
兼任	講師	藤 知映 ＜令和6年10月＞ 家政学修士(韓国) 韓国語
兼任	講師	新井 康平 ＜令和6年4月＞ 工学博士 データサイエンス入門※ メタバース論 メタバース演習 データアナリティクス概論
兼任	講師	木村 隆夫 ＜令和6年4月＞ 薬学士 データサイエンス入門※

専任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	権藤 幸憲 ＜令和6年4月＞ 経済学修士 くらしと経済
兼任	講師	藤田 由美子 ＜令和6年10月＞ 博士(教育学) ジェンダー論
兼任	講師	辻田 忠志 ＜令和6年4月＞ 博士(バイオサイエンス) 生命のしくみ
兼任	講師	北垣 浩志 ＜令和6年10月＞ 博士(農学) 生物と環境
兼任	講師	上山 和俊 ＜令和6年4月＞ 経済学修士※ 統計学の基礎
兼任	講師	福井 市男 ＜令和6年4月＞ 学士 身近な世界の物理学
兼任	講師	Eric Raschke ＜令和6年4月＞ Bachelor of Arts(7月)※ 英語コミュニケーションⅡ グローバルスタディーズ※
兼任	講師	Gareth Newbold ＜令和6年4月＞ BA(Hons) Primary Education (4月)※ 英語コミュニケーションⅡ グローバルスタディーズ※
兼任	講師	Brown Patricia Sharon ＜令和6年4月＞ Bachelor of Arts(7月)※ World Issues(世界事情)※ グローバルスタディーズ※ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	Derbel Mohamed Rami ＜令和6年4月＞ 博士(工学) World Issues(世界事情)※ グローバルスタディーズ※
兼任	講師	徳永 ヲヱラ ＜令和6年4月＞ Bachelor of Arts(2027) World Issues(世界事情)※ 日本文化理解
兼任	講師	周 嵐 ＜令和6年4月＞ 博士(学術) 中国語 日本語初級 日本語中級 日本語上級
兼任	講師	藤 知映 ＜令和6年10月＞ 家政学修士(韓国) 韓国語
兼任	講師	新井 康平 ＜令和6年4月＞ 工学博士 メタバース論 メタバース演習 データアナリティクス概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師		立川 洋輝 ＜令和6年4月＞ 医学修士 データサイエンス入門※
兼任 講師		横山 正博 ＜令和8年4月＞ 博士(保健学) 高齢者福祉論
兼任 講師		張 韓模 ＜令和7年10月＞ 博士(経済学) アジアの社会と文化
		＜令和6年4月＞ 博士(経済学) アジアの社会と文化 多文化社会学
兼任 講師		井上 英也 ＜令和8年10月＞ 学士(法学) 観光学入門
兼任 講師		古瀬 英隆 ＜令和6年10月＞ 法学士 観光ビジネス論
兼任 講師		北川 健太 ＜令和7年10月＞ 学士(社会学) ホテルビジネス論
兼任 講師		久光 俊一 ＜令和7年4月＞ 経済学士 旅行業務
兼任 講師		森尾 真之 ＜令和8年10月＞ 学士(産業社会学) マーケット論
兼任 講師		谷口 仁史 ＜令和7年10月＞ 学士(教育学) NPO・NGO論
兼任 講師		三上 聡美 ＜令和7年4月＞ 修士(心理学) 社会・集団心理学 産業・組織心理学
兼任 講師		遠藤 利彦 ＜令和9年4月＞ 博士(心理学) 仮想空間と心理学※
兼任 講師		保井 俊之 ＜令和7年10月＞ 博士(学術) 心理学と社会課題※
兼任 講師		中島 俊思 ＜令和8年4月＞ 博士(心理学) 乳幼児心理学
兼任 講師		宮本 知加子 ＜令和8年4月＞ 博士(心理学) 心理データ解析法
兼任 講師		綱 智子 ＜令和6年4月＞ 文学修士 TOEIC I TOEIC II
兼任 講師		園迫 りつ ＜令和7年4月＞ Master of Education(7/9/10) Academic English I Academic English II
兼任 講師		Mahmud Muhammad Al ＜令和8年4月＞ 博士(経済学) グローバルスタディーズ※ グローバル経済とビジネス
		＜令和6年4月＞ 博士(経済学) グローバルスタディーズ※ グローバル経済とビジネス World Issue(世界事情)※ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	全 炳徳 ＜令和7年4月＞ 博士(工学) 情報ネットワーク論 情報ネットワーク演習
		山城 佑太 ＜令和6年10月＞ 修士(工学) ソーシャルメディア論 AIとビッグデータ論 デジタルユニバーサルデザイン論 コンピュータのための物理学
兼任	講師	阿南 啓太 ＜令和7年10月＞ 専門士(作業療法士) 映像制作の基本 映像制作演習 グラフィックデザイン演習
		石松 隆和 ＜令和8年4月＞ 工学博士 プログラム基礎論 アルゴリズムとデータ構造
兼任	講師	山口 郁準 ＜令和8年10月＞ 修士(工学) ウェブコンテンツ演習
		鈴木 慶子 ＜令和6年10月＞ 修士(教育学) 文学と言葉
兼任	講師	堀内 伊吹 ＜令和6年4月＞ 芸術学士(音楽) 音楽とコミュニケーション
		矢野 香 ＜令和7年4月＞ 博士(総合社会文化) プレゼンテーション論
兼任	講師	山地 弘起 ＜令和7年10月＞ Ph.D(身体心理学)(7月)カ 身体コミュニケーション
		森 恵美 ＜令和7年4月＞ 短期大学卒 レクリエーション支援論※ レクリエーション支援演習※
兼任	講師	吉住 磨子 ＜令和7年10月＞ Ph.D(Art History)(スコットランド) 地域デザイン論
		西山 恵 ＜令和7年4月＞ 学士(健康栄養学) 地域の食産業※
兼任	講師	有岡 大介 ＜令和7年4月＞ 学士(社会学) 地域の食産業※
		横尾 敏史 ＜令和7年4月＞ 法学士 地域の食産業※
兼任	講師	岡田 英明 ＜令和7年4月＞ 学士(経済学) 地域の食産業※
		木原 寛幸 ＜令和7年4月＞ 高等学校卒 地域の食産業※
兼任	講師	桂城 博行 ＜令和7年4月＞ 経済学士 地域の食産業※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	全 炳徳 ＜令和7年4月＞ 博士(工学) 情報ネットワーク論 情報ネットワーク演習
		山城 佑太 ＜令和6年10月＞ 修士(工学) ソーシャルメディア論 AIとビッグデータ論 デジタルユニバーサルデザイン論 コンピュータのための物理学
兼任	講師	阿南 啓太 ＜令和7年10月＞ 専門士(作業療法士) 映像制作の基本 映像制作演習 グラフィックデザイン演習
		石松 隆和 ＜令和8年4月＞ 工学博士 プログラム基礎論 アルゴリズムとデータ構造
兼任	講師	山口 郁準 ＜令和8年10月＞ 修士(工学) ウェブコンテンツ演習
		鈴木 慶子 ＜令和6年10月＞ 修士(教育学) 文学と言葉
兼任	講師	堀内 伊吹 ＜令和6年4月＞ 芸術学士(音楽) 音楽とコミュニケーション
		矢野 香 ＜令和7年4月＞ 博士(総合社会文化) プレゼンテーション論
兼任	講師	山地 弘起 ＜令和7年10月＞ Ph.D(身体心理学)(7月)カ 身体コミュニケーション
		森 恵美 ＜令和7年4月＞ 短期大学卒 レクリエーション支援論※ レクリエーション支援演習※
兼任	講師	吉住 磨子 ＜令和7年10月＞ Ph.D(Art History)(スコットランド) 地域デザイン論
兼任	講師	有岡 大介 ＜令和7年4月＞ 学士(社会学) 地域の食産業※
		横尾 敏史 ＜令和7年4月＞ 法学士 地域の食産業※
兼任	講師	岡田 英明 ＜令和7年4月＞ 学士(経済学) 地域の食産業※
兼任	講師	桂城 博行 ＜令和7年4月＞ 経済学士 地域の食産業※

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和6年度】

・令和6年度就任 小形 幸平 助教、佐々木 隆夫 准教授、末次 絵里子 准教授、鈴木 雅子 准教授、松藤 泰代 准教授、土井 幸治 講師
・職名変更 小松 洋平 准教授→教授、南里 真美 助教→講師、村岡 淑恵 兼任講師→兼任講師
・学位名の変更 大塚 和良 講師
・教育充実のため、担当者として追加（新規開講含む） 小形 幸平 助教、上野 景三 教授、安田 みどり 教授、木室 ゆかり 教授、福元 裕二 教授、赤川 力 准教授、飯盛(小倉) 啓生 准教授、占部 尊士 准教授、中島 慎一 准教授、中村 雅俊 准教授、藤原 和彦 准教授、大川内 鉄二 講師、濱本 伸司 兼任講師、小笠原 晨一 兼任講師、溝上 泰興 兼任講師： あすなろ(初年次教育舎) 井本 浩之 教授、古賀 浩二 教授、菅原 正志 教授、橋本 健夫 教授、草場 聡宏 教授、利光 恵 教授、福元 健志 教授、植田 友貴 准教授、園部 ニコ ル 准教授、葛原 誠太 講師、小形 幸平 助教、高元 宗一郎 兼任講師： データサイエンスへのとびら 黒田 研二 教授、田中 豊治 教授、安徳 弥生 教授、占部 尊士 准教授、江口 賀子 准教授、岡部 由紀夫 准教授、加藤 稔子 准教授、佐々木 隆夫 准教 授、土井 幸治 講師： 社会福祉学へのとびら 安藤(北村) 満代 教授、岡嶋 一郎 教授、西村 喜文 教授、赤川 力 准教授、末次 絵里子 准教授、中国 照美 准教授、松本 麻希 助教： 心理学へのとび ら 三嶋 敏雄 教授、安部 恵代 教授、安田 みどり 教授、横尾 美智代 教授、久野 一恵 教授、福山 隆志 教授、堀田 徳子 教授、四元 博晃 教授、齋木 まど香 准教授、松藤 泰代 准教授、船元 智子 講師、三隅 幸子 講師： 栄養学へのとびら 山田 力也 教授、菅原 正志 教授、栗原 淳 教授、近藤 芳昭 教授、市川 浩 准教授、中島 慎一 准教授、山口 裕嗣 講師、甲木 秀典 講師： スポーツ 科学へのとびら 大田尾 浩 教授、大川 裕行 教授、久保 温子 教授、原口 健三 教授、押川 武志 准教授、小松 洋平 教授、岸川 由紀 准教授、中村 雅俊 准教授、中村 雅俊 准教授、藤原 和彦 准教授、松谷 信也 准教授、松尾 萌美 講師： リハビリテーション学へのとびら 草場 聡宏 教授、高尾 兼利 教授、田中 麻里 教授、日野 久美子 教授、櫻井 京子 准教授、久野 隆裕 准教授、新井 馨 准教授、宮崎 耕一 准教授、横 田 聡 准教授、宇賀神 一 講師： 保育学・教育学へのとびら 小林 幸恵 教授、滝 麻衣 教授、中島 洋子 教授、池田 佐知子 准教授、應戸 麻美 准教授、川島 睦子 准教授、鈴木 雅子 准教授、西尾 美登里 准教 授、平原 直子 准教授、藤田 史恵 准教授、大坪 奈保 講師、渡辺 直子 講師： 看護学へのとびら 園部 ニコル 准教授、Brown Patricia Sharon 兼任講師、Mahmud Muhammad Al 兼任講師、Steven Sager 兼任講師、Nathanial DePriest 兼任講師、Brylko Arina 兼 任講師： 英語コミュニケーションⅠ 園部 ニコル 准教授、Brown Patricia Sharon 兼任講師、Mahmud Muhammad Al 兼任講師、Steven Sager 兼任講師： 英語コミュニケーションⅡ 草場 聡宏 教授、植田 友貴 准教授、大塚 和良 講師、葛原 誠太 講師、小形 幸平 助教、高元 宗一郎 兼任講師、徳山 鍾三 兼任講師、猿澤 雄一 兼任 講師： データサイエンス入門 近藤 芳昭 教授、山口 裕嗣 講師、平野 貴章 兼任講師、山津 満代 兼任講師、大西 真果 兼任講師： フィットネス・スポーツ 近藤 芳昭 教授、市川 浩 准教授、中島 慎一 准教授、大西 真果 兼任講師、音成 道彦 兼任講師、岩崎 駿 兼任講師： ウェルネス・スポーツ 張 韓模 兼任講師： 多文化社会学 Trinh Thi Ngoc Lan 兼任講師： 変わりゆく国際社会を生きる 池田 知子 兼任講師、平野 貴章 兼任講師： 健康スポーツ科学 アイネル・バラティ 兼任講師： 中国語
・所属学部等の都合による担当者変更 黒田 研二 教授、末次 絵里子 准教授、鈴木 雅子 准教授： 関連職種連携入門 宮崎 耕一 准教授、渡辺 直子 講師： 地球環境・SDGs入門 Mahmud Muhammad Al 兼任講師、Steven Sager 兼任講師、宮脇 博巳 兼任講師、： World Issues(世界事情) 児玉 弘 兼任講師： 法学 池田 宏子 兼任講師： 日本国憲法 土井 幸治 講師： 児童・家庭福祉論 横原 弘司 兼任講師： 社会保障論Ⅰ 横原 弘司 兼任講師： 社会保障論Ⅱ 田中 沙来人 兼任講師： 発達心理学Ⅰ 山本 直実 兼任講師： TOEICⅠ 山本 直実 兼任講師： TOEICⅡ 山本 直実 兼任講師： Academic EnglishⅠ 山本 直実 兼任講師： Academic EnglishⅡ 長尾 行平 兼任講師、尾崎 正利 兼任講師： 地域の食産業
・担当科目変更に伴う、就任年月の変更 今井 里佳 講師、飯盛(小倉) 啓生 准教授、江口 賀子 准教授、松尾 萌美 講師、張 韓模 兼任講師

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、
大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**原則としてＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ませ**
・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
10	5
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
11	3	3	0	17	0	11	3	3	1	18	0
(11)	(3)	(3)	(1)	(18)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
11	3	3	1	18	0	11	3	3	1	18	0
[]	[]	[]	[1]	[1]	[]	[]	[]	[]	[1]	[1]	[]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授：68 准教授：65 その他の教員：60 歳	4 名	5 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{18}{17} = \boxed{105.88} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{4}{18} = \boxed{22.22} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2) - ② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
11 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
10	3	6	0	19	6	10	4	5	0	19	6
(10)	(4)	(5)	(0)	(19)	(6)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
10	4	5	0	19	6	10	4	5	0	19	6
[]	[1]	[Δ1]	[]	[]	[]	[]	[1]	[Δ1]	[]	[]	[]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授：68 准教授：65 その他の教員：60 歳	1 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{19}{19} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{19} = \boxed{5.26} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{6}{6} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
6	5	1	0	12	0	5	5	1	0	11	0
(5)	(5)	(1)	(0)	(11)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
5	5	1	0	11	0	5	5	1	0	11	0
[Δ1]	[]	[]	[]	[]	[]	[Δ1]	[]	[]	[]	[]	[]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授：68 准教授：65 その他の教員：60 歳	3 名	4 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{11}{12} = \boxed{91.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{11} = \boxed{27.27} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
10	5
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
6	2	2	0	10	0	6	2	2	0	10	0
(6)	(2)	(2)	(0)	(10)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
6	2	2	0	10	0	6	2	2	0	10	0
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授：68 准教授：65 その他の教員：60 歳	3 名	5 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{10}{10} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{10} = \boxed{30} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
14 名	7 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
8	8	2	0	18	2	9	7	2	2	20	0
(9)	(7)	(2)	(2)	(20)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
9	7	2	2	20	0	9	7	2	2	2	0
[1]	[Δ1]	[]	[2]	[2]	[Δ2]	[1]	[Δ1]	[]	[2]	[2]	[Δ2]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授：68 准教授：65 その他の教員：60 歳	0 名	1 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{20}{18} = \boxed{111.11} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{20} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{2} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
14	7
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
5	3	1	0	9	1	5	3	1	1	10	0
(5)	(3)	(1)	(0)	(9)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
5	3	1	1	10	0	5	3	1	1	10	0
[]	[]	[]	[1]	[]	[]	[]	[]	[]	[1]	[]	[]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授：68 准教授：65 その他の教員：60 歳	0 名	1 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{10}{9} = \boxed{111.11} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{10} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{1} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
14 名	7 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
3	5	1	0	9	1	4	4	1	1	10	0
(4)	(4)	(1)	(0)	(9)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
4	4	1	1	10	0	4	4	1	1	10	0
[1]	[Δ1]	[]	[1]	[1]	[Δ1]	[1]	[Δ1]	[]	[1]	[1]	[Δ1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授：68 准教授：65 その他の教員：60 歳	1 名	2 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{10}{9} = \boxed{111.11} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{10} = \boxed{10} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{1} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
6 名	3 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
8	7	2	0	17	1	7	7	1	0	15	1
(7)	(7)	(1)	(0)	(15)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
7	7	1	0	15	1	7	7	1	0	15	1
[Δ1]	[]	[Δ1]	[]	[Δ2]	[]	[Δ1]	[]	[Δ1]	[]	[Δ2]	[]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授：68 准教授：65 その他の教員：60 歳	1 名	5 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{15}{17} = \boxed{88.23} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{15} = \boxed{6.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{1} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）」の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2) - ② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
7	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
4	2	1	1	8	0	4	3	0	1	8	0
(4)	(3)	(0)	(1)	(8)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
4	3	0	1	8	0	4	3	0	1	8	0
[]	[1]	[Δ 1]	[]	[]	[]	[]	[1]	[Δ 1]	[]	[]	[]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授：68 准教授：65 その他の教員：60 歳	1 名	1 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{8}{8} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{8} = \boxed{12.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
12 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
9	8	9	2	28	2	10	8	9	2	29	2
(10)	(8)	(9)	(2)	(29)	(2)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
10	8	9	2	29	2	10	8	9	2	29	2
[1]	[]	[]	[]	[1]	[]	[1]	[]	[]	[]	[1]	[]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授：68 准教授：65 その他の教員：60 歳	1 名	1 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{29}{28} = \boxed{103.57} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{29} = \boxed{3.44} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{2}{2} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
		該当なし											
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。
 就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合 計 (F)					後任補充状況の集計 (G)								
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合 計 (D) + (F)						後任補充状況の集計 (E) + (G)				
辞任等した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計} (D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画} (A)} = \frac{0}{17} = 0 \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和5年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に実行すること。 子ども学部心理カウンセリング学科の収容定員超過の是正に努めること。 健康福祉学部社会福祉学科の収容定員未充足の是正に努めること。	学環の専任教員には、既に定年を超える者や完成年度を迎えるまでに定年を超える者が含まれるが、それらの教員については定年を延長する期限規定を設けている。また、若年層の雇用を確保するため、教員組織編制を検討し、令和6年4月から、助教を1名採用している。(6) 令和6年度の子ども学部心理カウンセリング学科における、入学者は41名(1年次生収容定員40名)であり、是正に努めている。(6) 学部等連係課程(デジタル社会共創学環)を届出にて設置し、社会福祉学科の定員30名を、学環の定員とした。(6)	令和6年9月より、准教授1名の採用を計画している(6) 今後も、入学者の適正な受け入れ数を検討していく。(6) 令和7年度入学生より20名減(編入定員含む)の「収容定員に係る学則変更届」を提出予定である。(6)
	【届出】 遵守事項	履行中	

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。

【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5) (6)」と記載してください。

【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<デジタル社会共創学環>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 卒業要件単位数 124単位	① 学生の専門性をより高めるため、高校生対象科目以外で、必修科目（1科目・1単位）を追加。 高大連携推進のため、高校生対象科目（8科目・8単位）を追加。 卒業要件単位数 125単位

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制 a 委員会の設置状況 ・西九州大学ファカルティ・ディベロップメント委員会を置き、FD活動を実施している。 ※西九州大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程を添付 b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） ・令和5年度は、FD委員会（メール会議を含む）を9回開催。 委員構成は副学長、研究科長、各学部長、教務部長、教務部副部長、各学科から選出された教員各2人、事務局長。 c 委員会の審議事項等 ・令和5年度FD研修会スケジュールについて ・令和5年度授業評価アンケートの実施について ・令和5年度アクションプログラムの総括と令和6年度アクションプログラムについて ② 実施状況 a 実施内容 令和5年度のFD研修会は以下のテーマにて実施した。 ・「学長就任にあたって」 ・「ChatGPT のしくみと大学における利活用の可能性」 ・「デジタル人材育成への一歩 ―全学協力体制の構築と企業協力教材の活用―全学協力の下での科目立ち上げとエンスその概要」 ・「データサイエンス科目での協力企業の役割と教材開発」 ・「ダイバーシティセンターの設置について」 ・「多様性と可能性」 b 実施方法 3キャンパスをWeb会議システムで繋ぎ、教職員は、各キャンパスの教室にて受講している。 c 開催状況（教員の参加状況含む） すべての専任教員に参加を促している。研修会の内容は録画し配信しており、欠席した教職員は、録画を視聴し、「FD研修会欠席者用確認書」を提出している。1年通して、FD研修会に一度も参加していない教員はいない。
--

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

当該研修会で共有された事例・課題を踏まえ、教育活動における改善の実施・検討を進めている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各学期末に、Webシステムによりアンケートを実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

「授業評価アンケートに関する報告書」を作成すると共に、IR室では、集計分析を行い、「授業評価アンケートに関する自己評価報告書」を作成し、HPに公表している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

デジタル社会共創学環では、令和6年度4月開設時に41名の入学生を受け入れた。設置届出計画通りのカリキュラムに沿った授業を展開し、入学時のガイダンスでは、西九州大学における3つの方針及びデジタル社会共創学環の3つの方針について具体的に説明している。また、入学生の約半数が留学生であることもあり、履修モデルに添った科目選択の指導等は、特に丁寧に行っている。なお、令和6年度は、正式な募集開始が遅れたために、入学定員充足には至らなかったが、学環（学部等連係課程）の目的や特色の周知を図り、入学者の確保に繋げたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・「西九州大学点検・評価に関する規程」第8条に基づき、4年を超えない範囲で公表する。

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

- ・令和6年に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [☒ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ☐ 公表後2～3ヶ月以内 ・ ☐ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ ☐ その他 ()]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに掲載するなど、積極的な情報提供をお願いします。

西九州大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

(趣旨)

第1条 西九州大学(以下「本学」という。)のファカルティ・ディベロップメント委員会(以下「委員会」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 委員会は、本学の教育の理念・目標及び教育内容・方法に関する組織的な研究、研修の円滑な実施を図ることを目的とする。

(業務)

第3条 委員会は、前条に掲げる目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 定期的なファカルティ・ディベロップメント講演会、研修会等の企画及び実施に関すること。
- (2) その他本学のファカルティ・ディベロップメントに関すること。

(組織)

第4条 委員会は次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副学長
- (2) 生活支援科学研究科長
- (3) 各学部長・学環長
- (4) 教務部長
- (5) 教務部副部長
- (6) 各学科・学環から選出された専任教員2人
- (7) 事務局長

(任期)

第5条 前条第6号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 前条第6号の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 委員会には委員長を置き、委員長は副学長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

(会議の開催及び議決)

第7条 委員会は、委員長が必要と認めたとき、又は過半数の委員から要請があったときに、委員長が招集する。

- 2 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第8条 委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(専門委員会)

第9条 事業を円滑に遂行するために、委員会が必要と認めたときは専門委員会を置くことができる。

- 2 委員会が必要と認めた時は、専門委員会に委員以外の者を加えることができる。

(事務局)

第10条 委員会に関する事務は、教務課において処理する。

(雑則)

第 11 条 この規程に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則（平成 21 年 7 月 16 日 制定）

- 1 この規程は、平成 21 年 7 月 16 日から施行し、平成 21 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 この規程施行後、最初に委嘱される第 4 条第 1 項第 5 号に規定する委員の任期は、第 5 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 23 年 3 月 31 日までとする。

附 則（平成 24 年 5 月 17 日）

この規程は、平成 24 年 5 月 17 日から施行し、平成 24 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（平成 26 年 3 月 6 日）

- 1 この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 社会福祉学科、スポーツ健康福祉学科及び心理カウンセリング学科の委員は、第 4 条第 1 項第 6 号の規定にかかわらず当分の間 1 人とする。

附 則（平成 27 年 2 月 25 日）

- 1 この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 6 年 5 月 23 日）

- 1 令和 6 年 5 月 23 日から施行し、令和 6 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 デジタル社会共創学環の委員は、第 4 条第 1 項第 6 号の規定にかかわらず当分の間 1 人とする。